

---

# 彼女と勇者と往復書簡

深月織

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

彼女と勇者と往復書簡

### 【Nコード】

N9983W

### 【作者名】

深月織

### 【あらすじ】

物見遊山半分で勇者選定式に旅立った幼なじみのアイツが、何の間違いか勇者さま（笑）に選ばれたそうです。大丈夫なのかしら。幼なじみの彼女（一般人）と彼（新米勇者）の旅の間の往復書簡。適当設定でお送りするノリだけファンタジー。

限定公開解除しました



たい」って何が最悪なのよちゃんと内容も書きなさいよ。まあ、すぐ後に届いた王国通信で大体の事情はわかったけどさ。

ええと。……御愁傷様？

これマジうつそ世界終わったー！　って村でちょっと騒ぎになっただわ。

同姓同名かと疑ったけど、お土産だけ届いてアンタが帰ってこないってことはやっぱり本当なのね。

勇者さま（笑）。

記事に魔王退治に行くって書いてあったけど、用意はちゃんと出てるの？　アンタうつかりだから忘れ物とかしそう。寝坊しても起こしてあげる幼なじみ様はいないんだから、しっかりしなさいよね。入り用のものがあれば遠慮なく言っ頂戴。この手紙と同じでギルドを通せばどこにいても届くでしょ。

とりあえずこのエーファ様特製の腹痛薬入れておいたから、ありがたく受け取るのね。アンタくらいじゃないの、市販の薬飲んでお腹壊す人。

まあいいわ、怪我には気をつけて、ちゃんと働いてきなさい。

……勇者（笑）って給料出るの？　しっかり交渉しておくのよ、タダ働きはダメよ。

暇があるときに旅先のこと、手紙で教えてくれたら嬉しいわ。

水の月十三日　エーファ・アイルツ



ジだ。大マジだ。

根性なしのこの聖剣がうっかり俺なんかに抜かれたもんだから、もう大変だったんだよ……。

怪しいなと思ったときに抜けないふりでもすればよかったと後悔しきりだ。本当なら今ごろ村に帰って……ああくそ、とつと魔王ぶっ飛ばして帰る！

と、俺としてはすぐさま旅に出るつもりだったが、陛下の野郎が激励会を！とか神殿長のメタボが加護の儀式を！とか言い出しやがってまだ城だよ。

おう、城だぞ城。城の一室に滞在中ですよ。騎士だの侍女だのあちこちに人がいてウゼエ。聖剣に呪われてるんだから逃げねえつうの。

田舎モンだからウカツに出歩けないしよ。迷子は一度で十分だ。城、アホみてえに広いんだよ。

で、パーティーやらお祈りやらの合間合間に魔王討伐のメンバーを決めているらしいんだが、これがまた辛気くさいのなんの。足手まといだから口ばっかりの貴族の坊っちゃんやら実戦経験が乏しい神官なんていらなんだが。

あと一日待つてまだ決まらないようなら勝手に出発しようと思っっている。何なら、城下で冒険者雇ってもいいしな。

そうそう、勇者には給料は出ないが、支度金や援助として金貨50000枚頂いたぞ。その日にギルドの金庫に預けておいた。いまいち神殿は信用出来ないっぽい。使い慣れているところの方がいいだろ。

締めり屋のエーファが金に困ることはないだろうが、もし何か入り用のことがあれば多少は使ってもいいぞ。暗証番号は知っているだろ？

ああ、そうだ薬助かった！ 城の飯旨いんだけど量が多いわ味は濃いわで胃薬貰ったらまんまと中ったよ……。また送って。

もう王宮料理はいいや、エーファの野菜シチューが食いたい。

水の月十七日 すすにうんぞりクロードより



のくせに生意気な。

ってゆーかさ、昔話聞いてたときにも思ったけど、魔王討伐に従者が四人ぼっちってどうなの？ 魔族さんたち大群で待ち受けてたら、アンタたちおしくらまんじゅうでペチャンコ敗北じゃないの？ …… ああ、だから王国の歴史が五百年なのに一八八代なのか…。

ガンバツ

それはおいといて、一昨日他の皆が村に帰ってきたわ。帰ってくるなり皆して人のところ押し掛けてきてアレコレ土産話してくれたけど、あんまりアンタの話してくれなかったのよね。

聖剣を抜いちゃったときどんなマヌケ面してたとか、引っ掛けたご婦人やら娘さんやらマツチヨやらにどう迫られてたとかネタになりそうなこと聞きたかったんだけど。

やっぱりアレかしら、身内から勇者（何回書いても笑うわー）が出ちゃって複雑なのかしら？ 同じ村出身で年齢もおなじくらい、差異はないのにアンタが選ばれちゃって、いろいろと考えるところがあるんだろうな、って思うとあまりしつこく訊けなくて。心優しいエーファさんとしたら、男のちっちえープライド叩き割るつもりもないからさ。ほとぼりが覚めたらまた訊こうかな。

そういえば皆やたらと気を遣ってくれたけど、別に便利な隣人兼幼なじみシが不在だからって早々困ることもないわよね。

ロゲールってば「俺がいるからいつでも頼りにしていいぜ」なんてカツコつけてたけど、黒油虫に悲鳴上げて震え上がる男が何の頼りになるんだって生暖かい気持ちになっただわー。あえて言わなかったけどさ。

そんな感じでこちらはいつも通りです。

野菜シチューはさすがに送れないけど、ちょこつと差し入れを同送しておくわ。アンタが勝手に拝借しやがって減った梅酒と、薬のセット。二日酔いの薬、胃薬と、追加の腹痛薬。また他に欲しかった

たら言つて。

美男美女揃いのお仲間さんの話もまた聞かせて頂戴ね。他人からは泰然と見えるらしい内情は人見知りのアンタが心配だわ。

女性もいるんだから、村にいるときみたいに半裸でフラフラしないこと。寝癖もきちんと直すのよ。黙つてキリツとしておけばそれなりに見られるんだから、初対面の人は騙されてくれるわ。

よろしくお伝えください。

（つて書いて、私のこと知らないんだからよろしくされても困るわよね、と気づいた。まあ、面倒な幼なじみが世話になるんだからということで。）

水の月二十三日 まだ出発しないのかよ！ と王国通信に突っ込んだのは内緒、エーファより



だから俺は一人で旅に出たかったつづのにクソ。

エーファがお訊ねの王国通信の写真についてですが、お察しの通り、あれは俺ではありません。写真が撮られたとき、俺はすでに王都から南の街に到着していたから。多分、対外的に格好をつけるために似たような人物を身代わりにしたんじゃないかな？ ご苦労様だね。華々しく出発して欲しかったんだろうが、いい加減面倒なのでとっとと城抜け出したあとでした。

ついでだからギルドで二、三簡単な依頼をこなしながら進んでいたんだが、二つ目の街を通過したときにお仲間さんに追いつかれた。現在一緒に移動中。ウゼエ。マジウゼエ。あいつらいるだけで目立つのなんの。こっそり魔王んとこまで行ってさっくり殺ってトンズラするつもりが、あいつらのせいでいちいち足止め食らってスピードが落ちたわ。マジウゼエ。無駄に美男美女、ぜってえ職業間違ってるし。

面倒なので一言で紹介してやる。神官は鬼畜眼鏡のストーカー。武官は硬派なロリコン。巫女は僕っ子で不思議っ子の二重苦。魔女はクールな天然ボケ。

…………… エーファが激励するまでもなくすでに死亡フラグが立っているような気がするのは俺だけか。

一人で旅したい……………。

村に帰れた野郎共がうらやましい、が、ここでもう一度言っておく。戸締まりはきちんとしろ。前言を撤回するが、手加減しなくいい。人がいない間に怪しい行動をするやつらは剪定鋏でちょん切っつていい。俺が許可する。特にロゲールは帰ったら風車小屋の裏に呼び出してやるから覚悟しておけと伝えてくれ。

王都でのことは、俺が色々話してやるよ。

あといちいち勇者にカッココ（笑）つけてんじゃねえ。

風の月一日 （あいつら絶対撒いてやる……………）クロードより



友人ABC誰よ！ 精悍（ぷっ）、底知れないって得体が知れないじゃないの、師匠のことまで捏造されてるし！

師匠つてば酔っ払って畑を耕してたアンタに「鍬の使い方がなつとらーん！」って絡んで肥溜めに突っ込んだこと口止めする代わりに剣を教えるって押し掛け師匠になつたんじゃなかったっけ？

記者フィルター怖い！ これから私、王国通信の記事は半分眉唾だと思つて見そう。よくああ見てきたような嘘っぽい嘘書けるよね！ 確かにね、記者っぽい人は来たのよ。ていうかアンタが選ばれてこつち、物見高い暇な人たちが村に押し寄せちゃって大変よー。だから魔窟を片付けたんだけど。

あ、安心して、『これが勇者の生家です！』って見せたのは外観だけだから。エロ本は隠し直してあげたわ、せいぜい探すのねフフ。ついでにお隣の薬師さんは「勇者さまが幼い頃から愛用していたお薬です」っていろいろ稼がせてもらつたわウフフフ。

村おこしで勇者グッズ作ってるけど、ちゃんと使用料取ってるから。安心して名を上げていいわよ。

ギルド長から聞いたけど、今はメイングの森を過ぎた辺りかしら。うっかりな勇者さまに傷薬の差し入れもしておくわね。あと、香草茶と。赤い花びらが入っているのが増血と消炎効果、青いのは精神安定よ。スツ転んだときとか、イラつときたときにも飲みなさい。何しろイロモノ勇者さま御一行ですものね、小心者のクロードが胃をキリキリさせている様子が目に見えるようだわ。止める私はいないんだから、キレないようにね。

風の月十一日 エーファ

追伸。長が何人が治安のために人を置いていつてくれているのでご心配なさらず。



が、ヤケクソみたいな量の薬を届けてくれたということは、やつぱり聞いたんだな。大丈夫、大したことはない。ちょこつと頭をザツクリ、いや、実は結構酷かったのは否定しない。でも巫女の治癒術があるから、あるんだけど、あるはずなんだが、（成功が稀ってどういうこと？）……ありがたくエーファの薬を使わせてもらってる。魔女が調査を知りたがっているので、良かったら教えてやってくれ。魔女といえば四人の中で彼女が一番アクが少ないため、気づけば会話することが多いんだが、鬼畜眼鏡が嫉妬してウゼエ。奴、幼児の頃から魔女に惚れているらしい。暇ありやネチネチ嫌味攻撃だよ。野郎、魔女の前では好青年気取りやがっていつか化けの皮を剥がしてやる。

武官は武官で巫女にデロデロだし、優しくすると甘やかすのは違うのだと一度注意したい。不思議巫女は電波を受信するたびに頓狂な行動をするので、軌道修正が大変なんだ。

青い茶の消費量が半端ない……。マイペースが四人揃ったら混沌だということはこの旅で知りました。俺、魔王と戦う前にこいつらと戦わなければならないんじゃないだろうか。

オッサンに頼んだ治安維持は、うん、勇者騒ぎで余所者が流れてきているようだから、念のため。俺がいない間、周辺の魔獣狩りも依頼済みなので安心してろ。間違っても青年団の仕事に混じろうとしないように。ジジイがお前に教えたのはあくまでも護身術なので、自重してください。

風の月十五日 クロード

追伸。別に俺はささやかな膨らみでも満足できる男なので、お前が豊胸体操をする必要はない。









こしいことにする色ボケ戦隊よりよっぽど頼りになってる。(もちろんエーファの手紙や差し入れも俺の支えになってるぞ！ いろいろとつっこみたいこともあるが。巫女の治癒術がアレなので、お前の薬が俺の命綱です。追加ください。)

神官が派手派手しい美で衆目を集めるなら、奴は静かな美貌でひっそり心に忍び寄る感じ？ この評は巫女と魔女の受け売りです。

サカリアスが仲間になったのはデイルツ領で誘拐事件を手掛けていたとき。なんでも彼の恋人が行方不明らしくて、誘拐被害者の中に彼女が居ないか探している途中、俺たちと行き合い協力しあうことになったんだ。

最初魔族の仕業だと言われていた事件は、大方の予想通り魔の活動が活発になってきていることを利用した便乗犯の仕業で、これぞお約束つてな展開で黒幕の領主が出てきた。館の地下に一代ハーレムって馬鹿じゃね？ とりあえず領主の始末は我慢の限界に達した女性たちにお任せして、神官のツテで領主代行を寄越してもらえように頼んでみた。お貴族様出身はこういふとき話の通りが早いな。魔王領域が近いから、来てがなかなか見つからなくてまた足止めされたけど。

肝心のサカリアスの彼女だが、いなかったんだ。これだけ探して見つからないということはあとは魔王領しか思い当たらないということだ。いい奴だから、悲しい思いはさせたくない。無事だといいな。

東マレール郷は魔王領域からは遠いので、あまり心配していないが、アホはどこにでもいるのでエーファも気をつけて。

早く村に帰ってエーファの飯が食いたい。

陸の月二十日　クロード





ムカつく。連絡寄越しなさいよ。薬は届いてるの。転移門を開ける力があつたら、どつきに行つてやるのに。

そもそもどうして勇者は徒歩で魔王討伐に向かわなきゃいけないのよ、誰が決めたのよ。

滅ぼすことのできない魔王に捧げられる勇者という贄、このシステムを誰が作ったの。

誰がアンタを私から奪おうとしているの



にくれたんだけど、ホントに行つてたと思う？ 他大陸に渡る船だなんて、商船だつて一年に一隻あるかどうかで、しかも渡航の許可が下りたとも思えないのに。……密航……？ いや！ 私は知らない何も聞かなかった気づかなかった！

しばらくのんびりするらしく、アンタが留守でちょうどいいし隣家に滞在するだつて。せつかく魔窟を片付けたのに。せめて家が壊れないように見張っておくわ。

進行速度を考えたら、そろそろ魔王領域に入る頃かしら。ギルド便もさすがにそこまでは手紙届けられないわよね。念のため、薬を多めに渡しておきます。持ちきれない分は、役に立たない従者どもに持たせなさい。梅酒はなくなっちゃったけどルーリーの果実酒がいい感じに出来たので、オマケで送っておきます。サカリアスさんとやらとお飲みくださいませ。それから、魔王領は宿なんてないだろうし、各種スパイス類ね。採取できそうな薬草のメモを入れておくので、役立てて。

……師匠にお前はオカンかって言われた……。失礼な！ ちよつと自分でも思つてたよ！

あと、これは独り言です。

逃げちゃつてもいいよ。

どうせまた四年したら新しい勇者を選ばなくちゃならないんだから、クロードがもうヤバイなつて思つたら、逃げちゃえ。私が許すつて言つても、アンタはギリギリの無理を重ねて何とかしようとするんだらうけど。馬鹿だし。待ってる。

陸の月二十五日 エーファ



ないでしょうか。そんな気がするギルド怖い。

その恐いギルドには、お前の提案通りサカリアスの恋人の情報は伝えてある。だけど、行方不明者の情報が多すぎて逆に解りづらいことになっていているらしい。奴が諦めない限り、俺も協力しようと思う。

果実酒うまかった！ ちよつといつもより甘めかな、と思ったけど、疲れてたからちよつど良かったよ。サカリアスには一口だけやってあとは独り占めしてやった！ ケチと言われようが俺のだもんね。色ボケ戦隊になんかやるもんか。魔女が作り方教えて欲しそうにしてたので、神官が飲むと思つたら腹立たしいが、あとでこっそり教えてあげてもいいか。お前が書いてくれた薬草料理レシピも凄く喜んでたし。

うん、無表情に喜んでた。神官に睨まれた。魔女が嬉しそうなのは良いがそれが他人（俺のことね）から与えられたものだということが気に入らないらしい。あの男ウゼエ。

ウゼエといえば、自分の髪を踏んでよく転んでいる巫女にエーファに以前叩き込まれたりリボンを使う髪結いをしてやったら、ものすつごくキラキラした尊敬の眼差しで見つめられて、武官にうつかり殺されかけた。手が滑りましたって普通岩は飛んでこねえ。自分が出来ないからって八つ当たりはヤメロ。

従者の女性たちはある意味小動物みたいでまだ可愛気があるだけ我慢できるが、野郎共はウゼエ、その一言に尽きる。早くおさらばしたい、というわけで魔王領域サクサク攻略したいと思う。

無理しない程度に頑張るから、心配しなくても大丈夫。いや、心配してくれるのは嬉しいけどな？

そうだ、エーファがあのだジジイの面倒なんか見なくていいからな俺んちから叩き出しといてください。ヨキア家のベルタさんに押し付けるとよいと思います。アンナさんでもいい。姉妹両方とか死ぬジジイ。

オカンなんて思っていないよ。ちゃんとエーファのところに戻るから、余裕で待ってる。

流月十日 クロード



そう、もうお気づきのこととは思われますが、私、この度薬師階級を上げました！ 情報誌を購読できるギルド位ランクが必要だったのと、改めて師匠や長に勧められたのよね。階級を上げるとクエストの義務が生じるし面倒だから、登録時のままにしていたけれど、このご時世だもん、贅沢は言えないわ。

いいこともあったのよ。ギルドを通しての薬や薬草の買取額が二割増しになったの。巷の流行りは治癒術だけど、実のところ術力切れになっただらそこで終わりだから、ギルドでは重篤な怪我でもない限りは薬や薬草を使うことをオススメされているんだって。

それに何ととっても、私の薬は勇者さま御用達ですから。稼がせていただいていますわ。

と、いうわけで売れっ子薬師になってしまった私は、少なくなっただ在庫補充のためにただいま採集の旅に出ています。いつもはアントラについてきてもらって、村周辺の森を回るくらいだったし、こんなに遠出するのも初めてだから、ちよつとビクビクしてる。王都行ったときのアントラを笑えないわ。

ホントのところ、師匠が「村ひま、温泉行きてえ癒されてえー！」って駄々こねたのが発端。そしたらギルド長が「いいところ知っていますよ」って、師匠を唆してさ（ちなみにアントラ家で飲み会やつてる最中。ツマミ作製要員が私）。なだめるのも邪魔くさかったから、「ハイハイ行ってらっしゃいお土産よろしくー」、なんて見送る気満々だったのに、温泉地で特別に取れる薬草の話なんて持ち出されたら行くしかないでしょう。「温泉なら私たちも行きたいわ」ってヨキアさん家のお姉さんたちも言い出して、めでたく出発と相成ったわけです。ギルド長ってば師匠に体よく魔獣討伐押し付けて、私を薬草採取に誘導して一挙兩得を狙ったんじゃないの……？

なんだか釈然としないながらも、温泉堪能しつつの魔獣退治は師匠とお姉さんたちに任せて、私は隅っこでちまちま採取を頑張ってます。美人姉妹を両手にウハウハしている師匠がウザイので、調査中偶然できたつばい「ちよつと男性が大人しくなるお薬」を、実験

がてら今夜飲ませてみようかと思ってる。

採取している以外はなにもすることがなくて、毎日上げ膳据え膳温泉にまったりつかって、怠けた身体がもちもちしてきたような気がします。ヤバイ。肌がもちもちはいいけど身体がもちもちはヤバイ。明日から走る。

この辺りで採れる野草を使ったお料理、宿の人に教えてもらったので、クロードが帰ってきたら作ってあげるわね。腹痛や胃痛に気をつけて、無理せず頑張ってください。

流月十四日 エーファ

(ところでギルド便、ここにまでやって来ました……。いや、長から私の居場所は聞いていたのかもしれないけど、けど……。！ギルド便恐い。)



こっそりとかひっそりって言葉知ってるかー(怒)！ と俺がキレて二人に当て身をくらわすくらい、仕方ないと思わね？ あとで魔女には謝つといたけど。逆にめちゃくちゃ謝り返されたけど。女の子、手加減したとはいえ殴っちゃいけないですよ、反省。神官は放置。

それ以来魔女は神官を丸無視です。そうすると必然的に俺たちとばかり会話をすることになるわけで。……神官の視線で呪われそう。サカリアスも同じ立場だというのに、なんで俺だけ。ムカつくから魔女にことさらにこやかに接してやった。いや、妹を可愛がるようにだからな、誤解すんなよ？

昇格おめでとう……と言っているのか？ いいのか。とりあえずおめでとう。俺がいない間にジジイも長も好き勝手にやがるな。特に長、本部にいるよ、フットワーク軽すぎだろ。ジジイにはぎっくり腰になれの念を送っておく。温泉いいな温泉。俺もまつたりしたい。帰ったら俺も一回行きたい。もちもちはエーファさんが気になってる部位に集めてみたらどうですかと一応提案してみる。

旅もそろそろ終盤です。魔王領域も半ばを過ぎると、魔獣は減り魔族さんの姿が周囲にチラホラし始めています。ストーカーか。たまにちよっかいかけてきて、嫌がらせのように中途半端な攻撃をしてくださるのですが、イライラする！ イライラするぞ！ もう魔王もまとめて来てくんないかな！

だめか。勇者が行くのが決まりごとですかそうですか誰が決めた。まあね、だって魔王は別にこっちに攻めてきているわけじゃないもんねー、こっちが攻めてる立場ですもんねー、とか言ったら何罪で捕まるのか興味あるー。ここまで来たら関係ないけどな。

死亡フラグ立てるついでに言つとこう、俺、帰ったらエーファに聞いてほしいことがあるんだ。

逃げんなよ、地の果て……は俺が今いるとこだから、世界の果てまで追っかけるぞ、覚悟しとけ。

よし。いろいろ楽しみも出来たことだし、サクッと行ってくる。  
そろそろギルド便、厳しそうだなあ。

流月二十一日 クロード

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9983w/>

---

彼女と勇者と往復書簡

2011年10月11日12時55分発行